

河内晩柑の新品種“新和ジューシー”

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

熊本県で生まれた河内晩柑は、きわめて生産性が高く、初夏に向けての爽快味は、日本版グレープフルーツとしての評価は高い。また4～5月に採収、出荷ができるため、カンキツ周年供給体制の最後を担う品種として、今後とも積極的に特産地化を図る必要がある。

今回、河内晩柑から誕生した“親和ジューシー”は、果実が赤味をおびており、市場性の高い品種として選定を行った。

研究の成果

1. 育成の経過

本種は天草郡親和町で昭和58年に発生し、同年から果樹研究所が調査を行った結果、固定した変異種であることを確認した。平成元年3月に種苗登録の申請を行い、平成3年6月“親和ジューシー”の名称で登録(第2700号)された。

2. 品種の特性

(1) 樹性

樹姿は河内晩柑と同様にやや立性で、樹勢は強く、枝梢の発生は粗い。葉の大きさは中位で翼葉があり、河内晩柑と同じ形態を現す。

(2) 結実性

花序は単性ないし総状で着果性はよく、結果期に達するのも早い。河内晩柑と同様に単為結果性と自家不和合性をもつ。

(3) 果実特性1

果形は短卵形、果面は滑らかで、果実の大きさも河内晩柑と同程度である。果皮色は河内晩柑と異なり、着色始めから赤味を帯び、完着期には橙黄ないし橙色を現す。果皮色の増進に伴い、果肉色、アルベド層も赤味を示し、果肉にはほのかな香りを発生する。

(4) 果実特性2

果汁の糖度、クエン酸含量や多汁性、含核性は、河内晩柑とほとんど変わらない。熟期は3月中旬で、採収は河内晩柑と同時期である。

3. 栽培上の留意点

高品質で赤味の濃色な果実を安定して生産するためには、樹上越冬の可能な冬期温暖なところに植栽する。栽培にあたっては、密植をさげ、適正な樹冠距離を保つとともに、間引きを主体としたせん定を行い、葉数の確保に努める。

冬季落果防止のためには、秋季の施肥や土壌水分の維持など土壌管理に留意する。

表 1 新和ジュースーの果汁の品質 (昭和60・63年)

項目 系統	平均果重	果肉歩合	果汁歩合	屈折計示度	クエン酸	可溶性 固形物	甘味比
新和ジュースー	g 295.8	% 63.4	% 68.5	10.6	1.23	11.68	9.52
河内晩柑	318.6	62.9	69.0	10.9	1.27	12.03	9.56

表 2 新和ジュースーの樹体と花の形態

項目 系統	樹姿	樹勢	葉身			翼葉		花弁			子房	
			面積	長さ	葉形指数	形	大きさ	長さ	幅	数	長径	長さ
新和ジュースー	やや立	強	cm ² 54.2	cm 12.6	1.94	くさび	cm 1.1×0.5	cm 2.2	0.9	5.1	mm 3.9	mm 4.4
河内晩柑	やや立	強	55.8	12.5	1.76	くさび	1.2×0.6	2.4	1.0	5.0	4.3	4.4

表 3 新和ジュースーの果実の形態

項目 系統	果実の形態			花柱痕 の大きさ	中心柱 の大きさ	果実 重	果皮 色	油胞		アルベ トの 着色	砂じょう	
	果形	指数	横径					大きさ	密度		大きさ	色
新和 ジュースー	腰高	108	cm 8.5	mm 1.6	mm 8.5×7.3	g 326	黄橙 7.3	mm 0.86	54.5		mm 16.8×3.2	黄橙5.3
河内晩 柑	腰高	112	8.9	1.5	9.6×9.1	348	黄 3.6	0.87	52.6	-	15.1×2.9	黄橙4.2

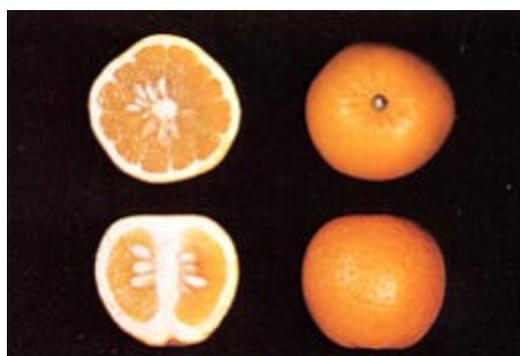


写真 新和ジュースーの結実状態と果実